

2024年3月期第1四半期決算説明会 主なQ&A

【インバウンド】

- Q インバウンド収入は想定を上回るペースとのことだが、各セグメントのインバウンドの状況は。また、ジャパン・レール・パスの価格改定による収入増は通期予想に織り込んでいるのか。
- A インバウンドによる運輸収入は83億円の実績。ホテル、百貨店等でのインバウンド売上が50億円程度であり、グループ全体で130億円程度の実績だった。ホテル、百貨店ともにコロナ前水準までご利用が増えている。インバウンドによる運輸収入は年間で200億円程度を見込んでおり、ジャパン・レール・パスの商品内容見直しにあわせた価格改定による増収見通しもこの中に含んでいる。現時点でインバウンド利用は想定以上であり、当初見ていたよりも大きな増収効果が出せるように取り組んでいきたい。

【モビリティ業】

- Q 決算の運輸収入は、月次開示している取扱収入のコロナ前比率よりも大きくなっているが要因は。
- A 月次開示している取扱収入は、当社管内での発売実績を速報でお知らせしている。一方で、決算の運輸収入は、他社で発売されたものも含まれる。首都圏発着は地方発着より好調なことから、首都圏での当社管内ご利用分の発売状況が、決算の運輸収入の押し上げに寄与しているという面もあると考えている。
- Q 運輸収入について、現状においてビジネス・旅行別の動きをどう認識しているか。
- A 新幹線については、平休日別でみると、コロナ前比では依然として平日よりも休日の方が高く、観光需要の回復が堅調という傾向は継続している。一方で、平日のご利用も回復傾向にあり、その差は縮まってきている。近畿圏については、定期は概ねコロナ前の9割を少し下回る状況で推移しているが、外出需要は回復傾向にあり、押しなべて近畿圏のご利用はコロナ前の9割を少し超える水準と認識している。
- Q 単体営業費用の進捗は。
- A 人件費は、賞与の増や人的資本への投資により進捗率が高く見えるが、通期では人員差による影響もあり業績予想の水準に落ち着くと考えている。動力費は、昨年度第1四半期よりは資源高の影響で増えているが、想定よりは低い水準に落ち着いた。修繕費や業務費は進捗率が低く見えるが、例年下期に経費が偏っていることもあり、通期では計画どおりの状況と見ている。

【旅行・地域ソリューション業】

- Q 旅行・地域ソリューション業は順調に回復しているが、ツーリズムとソリューション事業別ではどのような状況か。通期計画を上回る状況ではあるが、業績予想を修正するレベルには至っていないのか。
- A 旅行・地域ソリューション業の第1四半期は1~3月であり、ワクチン接種事務局関連事業も引き続き受注できた。営業利益の大部分はソリューション事業によるものであるが、ツーリズム事業に関してもコロナからの回復が少しずつ見えてきている状況であり、想定よりもツーリズムのご利用が強かったことが、全体として利益の押し上げに貢献した。業績予想について、新型コロナウイルスの分類変更によりワクチン接種関連の状況が変わるため先を見通しづらいが、グループ全体として通期予想は据え置くこととした。

以上